

保護者のニーズとその対応 保育所と幼稚園における調査結果の比較

母子保健研究部 齋藤幸子
愛知淑徳大学 須永 進
秋草学園短期大学 青木知史
文部科学省初等中等教育局 山屋春恵

要 約

保護者のニーズとその対応について、2008年度は保育所において、2009年度は幼稚園において保育者を対象に調査を実施した。本年度は2回の調査を通して得られた保育所187名、幼稚園114名の回答内容を比較して分析した。結果は以下の通りである。

1. 幼稚園はしつけなど教育の内容や環境に関わる「教育」のニーズが比較的多く、保育所は病時や日常の世話に関わる「ケア」ニーズが多かった。
2. 幼保共通するニーズとして、保育時間の延長の要望があげられた。病時の保育ニーズとあわせて、幼稚園においても保護者の就業支援としての保育ニーズが高まっているといえる。
3. 共通ニーズとしてアレルギーへの対応もあげられ、病時の保育ニーズや食の問題とあわせて、保健領域のニーズは高い。看護職・養護教諭・栄養士の配置、保健室の設置など保健環境の充実が望まれる。
4. ニーズへの対応に苦慮する割合は保育所がやや高い傾向が見られ、幼稚園では受け入れがたいとして断った要望を、保育所では不本意ながら受け入れる例が認められた。その違いの背景については今後の課題とした。

キーワード：幼稚園、保育所、保護者のニーズ、育児支援

Parents' Needs and Support Measures: A Comparative Study of Kindergartens and Day Nurseries

Sachiko SAITO, Susumu SUNAGA, Satoshi AOKI, Harue YAMAYA

Abstract : To compare the parents' needs and the support measures of kindergartens with those of day nurseries, questionnaires were sent to 22 kindergartens (2008) and 14 day nurseries (2009) in the Tokyo metropolitan area and Sapporo city area. An analysis of the responses of 114 kindergarten staff and 187 day nursery staff provided the following results.

1. The parents' needs regarding education were relatively dominant in the case of kindergartens, and those regarding diverse childcare were relatively dominant in the case of day nurseries.
2. A need common to kindergartens and day nurseries was the extension of the time in which childcare is available. In other words, extracurricular daycare services in the kindergartens were required to meet the needs of working parents.
3. Support measures for children with allergic diseases were also required in both kindergartens and day nurseries. Furthermore, parents reported many needs concerned with health support services such as nursing care for sick children and food and nutrition education. The health support environment in both kindergartens and day nurseries should be enhanced. For instance, arrangement of nurses or nurse-teachers, dietitians and the school nurse's office should be offered.
4. A larger proportion of day nursery staff, as compared to kindergarten staff, felt that some needs were difficult to meet. Certain demands that were acceded to in the day nurseries as an unpleasant necessity were refused in the kindergartens. Accordingly, further research is required to explain this discrepancy.

Keywords : kindergarten, day nursery, parents' needs, family support measures

I. 研究目的

近年、保育所および幼稚園は、通常の保育のほか保護者に対する支援、家庭との連携が求められるようになってきている。また、地域子育て支援の観点からは、保育所や幼稚園がその拠点となって、それぞれの専門性を活かした地域貢献が求められている^{1) 2)}。保護者ニーズが多様化していることとも相まって、保育の現場は新たな体制や多様な対応を迫られているといえよう。

このような状況の中、本研究ではその実状を調べることが目的に、過去2年に渡って、保育ニーズとその対応についての調査を実施してきた。平成20年度は14カ所の保育所において、平成21年度は22カ所幼稚園において、保育士および教諭（以下、両者の総称を保育者とする）を対象として「保育ニーズに関するアンケート」を実施した^{3) 4)}。

本稿は、この2つの調査結果を対照し、それぞれの特徴および共通する課題を探る目的で分析を行った。幼保一体化の議論が進む中、すべての家庭を視野に入れた地域子育て支援のあり方を検討するための資料とする。

II. 研究方法

平成20年度保育所調査の回答187票、および平成21年度幼稚園調査の回答114票から、保育ニーズとその対応に関する設問の記述回答について比較分析を行った。2つの調査は、同じ地域（札幌市および首都圏）で実施し、いずれも私立の施設であった。保育所14カ所、幼稚園22カ所において保育者を対象として、同じ内容の質問紙調査を実施した^{3) 4)}。

回答には、ニーズ以外にも要望やクレームなどが含まれたが、記載されたすべての内容を分析の対象とし、過去2回の報告で分類整理した資料を使用した。主に質的に検討したが、量的な比較は χ^2 検定を行った。

III. 結果

1. 全体（大項目）の比較

保護者から寄せられた保育ニーズと対応について、保育所と幼稚園の結果を対照させて表1に示した。5領域及び「その他」の計6項目に分けて記述回答を求めた結果、表に示すような割合で回答が得られた（%ベースは幼保それぞれの回答者数である）。幼稚園で最も多かったニーズは「Ⅲ食事・おやつ」であり、次いで「Ⅱ保育方法・形態」「Ⅰ保育内容」であった。保育所では「Ⅱ保育方法・形態」が最も多く、次いで「Ⅰ保育内容」「Ⅲ食事・おやつ」であった。

幼稚園と保育所の間（以下、幼保間と表記）で回答率に差が認められたのは「Ⅲ食事・おやつ」であり、幼稚園54.4%・保育所36.9%と幼稚園の割合が高かった（ p

<0.01 ）。同じく「Ⅴ保育環境について」も、幼稚園30.7%・保育所11.8%と幼稚園の割合が高かった（ $p < 0.05$ ）。

対応に苦慮した割合は、「Ⅲ食事・おやつ」で差が認められ、幼稚園9.8%・保育所26.1%と、保育所の割合が高かった（ $p < 0.05$ ）（%ベースは記載ありの回答数）。他の項目では有意な差は認められなかったが、苦慮したと答えた割合は、すべての項目で保育所の値が幼稚園を上回っていた。

表1. 領域別保育ニーズとその対応に苦慮した割合(%)

	ニーズの記載		検定	対応に苦慮		検定
	幼	保		幼	保	
I 保育内容	42.1	39.6	-	23.4	25.7	-
II 方法・形態	47.4	42.8	-	22.2	35.0	-
III 食事・おやつ	54.4	36.9	**	9.8	26.1	*
IV 職員に対して	25.4	21.9	-	32.1	48.8	-
V 保育環境	30.7	19.3	*	24.2	27.8	-
VI その他	13.2	11.8	-	35.7	40.9	-
合計	213.2	172.3	-	21.5	32.7	-

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

2. ニーズの内容の中項目における比較

上記大項目におけるそれぞれの記述内容を分類整理し中項目を立てた結果を幼保対照させて表2に示した。表の最も右の列には件数の割合（それぞれの全体に対する%）の差（保育所%-幼稚園%）を算出してある。その差の値で並び替えた結果が図1である。この図の上方にあげられた項目は幼稚園に比べて保育所に多いニーズ内容であり、下方は保育所に比べて幼稚園に多いニーズ内容である。中間に位置する項目は、幼保間で差が小さい内容である。

幼保間の差が大きかった項目をあげると以下の通りである。

- 保育所 > 幼稚園：上位5項目
 - 12. 病時関連 保 21.9% > 幼 5.3%
 - 4. 身の回りの世話 保 13.9% > 幼 7.0%
 - 1. 昼寝について 保 7.0% > 幼 1.8%
 - 11. 私用で預けたい、延長したい 保 4.8% > 幼 0.0%
 - 27. 食事内容の情報要求 保 4.8% > 幼 0.0%
- 幼稚園 > 保育所：上位5項目
 - 21. 食事上のしつけ 保 5.9% < 幼 29.8%
 - 45. 環境衛生・事故防止 保 2.7% < 幼 14.0%
 - 14. 保育時間の延長 保 12.3% < 幼 21.9%
 - 35. 子どもへの対応 保 6.4% < 幼 14.9%
 - 8. 遊びや保育の内容 保 6.4% < 幼 14.9%

表2. 保護者のニーズの内容とその対応分類項目別集計

大分類	中分類	保	幼	保(%)	幼(%)	保-幼(%)	
1	保育内容	1 昼寝について（させて欲しい、させないで欲しい）	13	2	7.0	1.8	5.2
		2 文字を教えて欲しい（読み書き・英語）	8	6	4.3	5.3	-1.0
		3 外遊びについて（かぜ、いやがる）	17	7	9.1	6.1	3.0
		4 身の回りの世話・個別対応	26	8	13.9	7.0	6.9
		5 歯磨きをして欲しい	4	0	2.1	0	2.1
		6 トイレット・トレ0ニング	6	6	3.2	5.3	-2.1
		7 しつけの希望、習癖の改善（食事関連は21）	7	5	3.7	4.4	-0.6
		8 遊びや保育の内容（制作、楽器など）	12	17	6.4	14.9	-8.5
		9 安全について（けが、けんか、かみつぎ）	14	6	7.5	5.3	2.2
		小計	107	57	57.2	50.0	7.2
2	保育方法・形態	11 仕事ではないが私用で預けたい、延長したい	9	0	4.8	0	4.8
		12 病時関連（預かって欲しい、発病時迎えにこない）	41	6	21.9	5.3	16.7
		13 障害児受け入れ関連・体制	6	13	3.2	11.4	-8.2
		14 保育時間の延長（預かり保育）	23	25	12.3	21.9	-9.6
		15 保育形態（縦割り保育、一時保育）	8	7	4.3	6.1	-1.9
		16 保健関連（投薬・けがへの対応）	4	4	2.1	3.5	-1.4
		17 その他	4	4	0.0	3.5	-3.5
		小計	95	59	48.7	51.8	-3.1
3	食事・おやつ	21 食事上のしつけ（偏食、小食、マナー）	11	34	5.9	29.8	-23.9
		22 アレルギー関係（除去、メニュー）	19	12	10.2	10.5	-0.4
		23 病気のときの食事	4	0	2.1	0	2.1
		24 食事の量	5	0	2.7	0	2.7
		25 おやつ関連（量、手作り、延長時対応、内容）	12	2	6.4	1.8	4.7
		26 個別な要求（特定の食べもの、弁当持参など）	7	4	3.7	3.5	0.2
		27 内容についての情報の要求（材料、レシピなど）	9	0	4.8	0	4.8
		28 悩み、問題（朝欠食、お弁当の作り方、好き嫌い）	9	11	4.8	9.6	-4.8
		29 食事関係その他	4	4	2.1	3.5	-1.4
		小計	80	67	42.8	58.8	-16.0
4	職員に対して	31 保護者への対応の不満（言葉使いなど）	10	4	5.3	3.5	1.8
		32 話（個人的なこと）を聞いて欲しい、相談	6	3	3.2	2.6	0.6
		33 園での様子を伝えて欲しい	6	4	3.2	3.5	-0.3
		34 トラブルに対する対応への不満足、批判	9	3	4.8	2.6	2.2
		35 子どもへの対応の仕方（叱らないで欲しい、怖い）	8	15	4.3	13.2	-8.9
		36 担任とのコミュニケーション	6	1	3.2	0.9	2.3
		37 専門的対応	5	7	2.7	6.1	-3.5
		小計	50	37	26.7	32.5	-5.7
5	保育環境	41 職員配置（人数）	16	13	8.6	11.4	-2.8
		42 進級（クラス分け）	5	3	2.7	2.6	0.0
		43 行事運営関連	11	2	5.9	1.8	4.1
		44 防犯・安全管理	4	2	2.1	1.8	0.4
		45 環境衛生・事故防止	5	16	2.7	14.0	-11.4
		49 設備・備品	0	8	0	7.0	-7.0
		50 その他	0	4	0	3.5	-3.5
		小計	41	48	21.9	42.1	-20.2
	合計（記述内容件数）	369	268	197.3	235.1	-37.8	
	全体（対象数）	187	114	100.0	100.0	0.0	

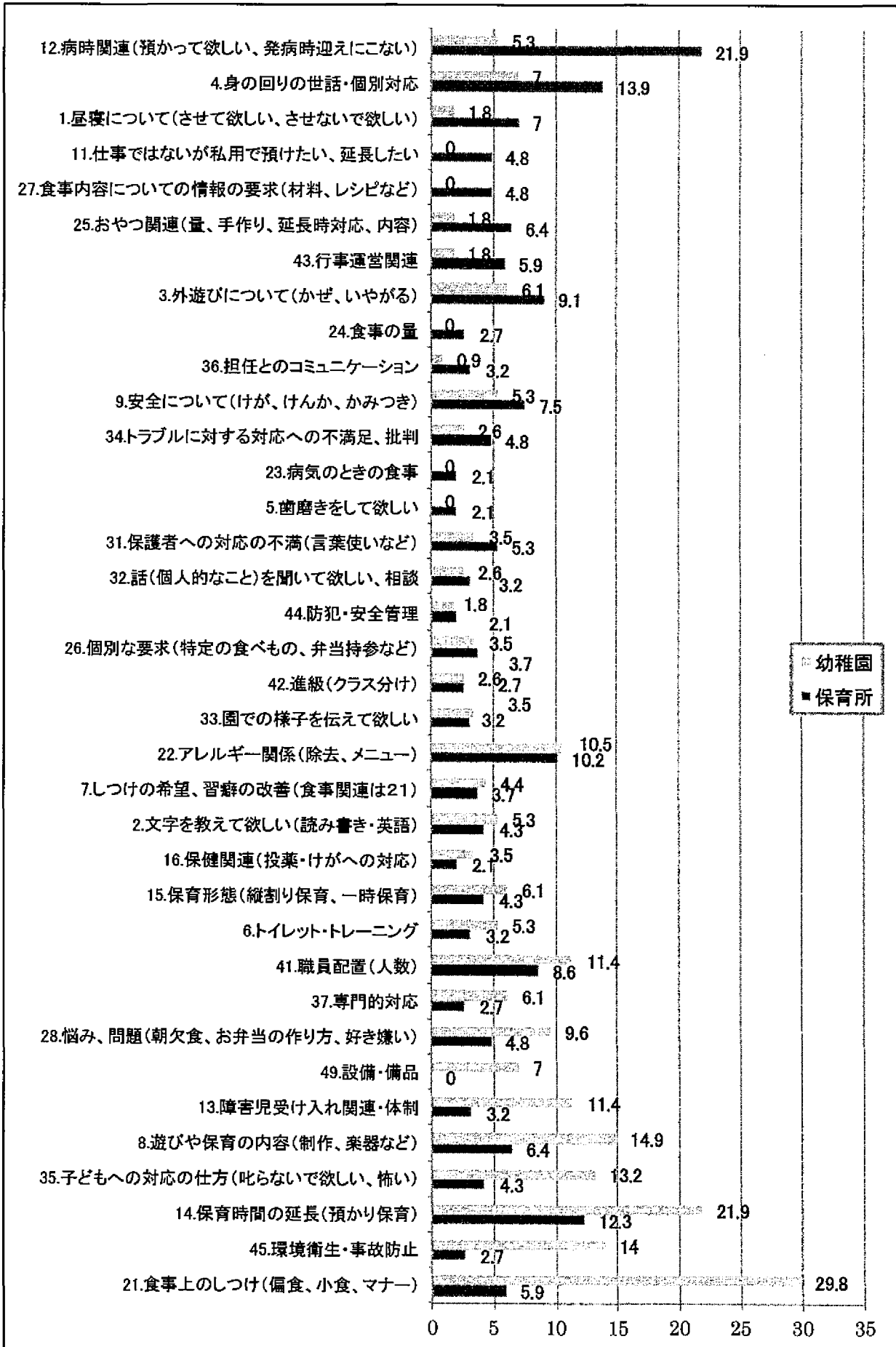


図1. 表2の並べ替え: %の差の降順[保育所%-幼稚園%]

上記のように相対的にみると、保育所においては、病気の時や私用の保育ニーズ、世話・昼寝・食事の内容といった親と子の生活に即したニーズが比較的多い。一方幼稚園では、保育時間延長のニーズが特徴的ではあるが、食事上のしつけ・保育の内容・子どもへの対応の仕方・保育環境など、保育や教育の内容や質に関するニーズが保育所に比べて多いといえよう。

表3-1、表3-2には、幼保それぞれの中分類で件数の多かった順に10位までを示した。保育所の1位は「病時関連」すなわち、子どもが病気やけがをした時の保育ニーズであり、2位が「身の回りの世話」である。幼稚園の1位は「食事上のしつけ」で3位が「遊びや保育の内容」となっており、幼児教育の内容に関する要望である。前述した幼保の違いの結果（表2）とあわせてその特徴を一言で表せば、保育所は「ケア」、幼稚園は「教育」のニーズが高いといえよう。

表3-1. 保育所ニーズ中項目上位10項目

順位		N	%
1	12. 病時関連	41	21.9
2	4. 身の回りの世話・個別対応	26	13.9
3	14. 保育時間の延長	23	12.3
4	22. アレルギー関係（除去、メニュー）	19	10.2
5	3. 外遊びについて（かぜ、いやがる）	17	9.1
6	41. 職員配置（人数）	16	8.6
7	9. 安全について（けが、けんか）	14	7.5
8	1. 昼寝について	13	7.0
9	8. 遊びや保育の内容（制作、楽器）	12	6.4
9	25. おやつ（量、手作り、延長時対応）	12	6.4

表3-2. 幼稚園ニーズ中項目上位10項目

順位		N	%
1	21. 食事上のしつけ（偏食、小食）	34	29.8
2	14. 保育時間の延長（預かり保育）	25	21.9
3	8. 遊びや保育の内容（制作、楽器）	17	14.9
4	45. 環境衛生・事故防止	16	14.0
5	35. 子どもへの対応（叱らないで）	15	13.2
6	41. 職員配置（人数）	13	11.4
6	13. 障害児受け入れ関連・体制	13	11.4
8	22. アレルギー関係（除去、メニュー）	12	10.5
9	28. 食事関連の悩み・問題	11	9.6
10	4. 身の回りの世話・個別対応	8	7.0

共通項目としては、「保育時間の延長」が、保育所3位、幼稚園2位となっており、双方に多いニーズであった。これ以外の共通ニーズを探るため、表3-1、表3-2において幼保双方の10位以内に入った共通項目をあげると以下の5項目であった。「保育時間の延長」に次い

で、「アレルギー関連」「職員配置」が共通のニーズとして多い項目といえよう。

- 4. 身の回りの世話・個別対応：保2位・幼10位
- 14. 保育時間の延長：保3位・幼2位
- 22. アレルギー関係：保4位・幼8位
- 41. 職員配置（人数）：保6位・幼6位
- 8. 遊びや保育の内容：保9位・幼3位

3. 個別のニーズの比較

中項目でくくった内容を細かくみていくと、幼保で似ているものと、異なる傾向を示すものがあった。個々の内容から、共通してあげられたニーズ、保育所で特徴的なニーズ、幼稚園で特徴的なニーズのそれぞれを表4-6に示す。共通のニーズでは、保育の内容や形態の基本的な部分が多いが、個別の事情による要望や食に関する悩み、保育者への要望などから双方の保護者がもっている共通した問題や不安などの状況がうかがえる（表4）。表5、6の幼保それぞれのニーズでは、正に保護者が「欠けている」と感じている要望があげられている。その対応については、事項でみていくこととする。

表4. 幼保共通のニーズ

I 保育の内容：昼寝をさせて欲しい・させないで欲しい。文字や数を教えて欲しい。外遊びをさせないで欲しい・もっと多くして欲しい。個別の事情への対応（迎えの時までに着替えをさせて欲しい。特定の子どもと遊ばせないで欲しい）。トイレ・トレーニング。しつけ。習癖の改善。けがをさせないで欲しい。
II 保育方法・形態：病気の時の保育。障害児の受け入れ。保育時間の延長。縦割り保育への異論。投薬。
III 食事・おやつ：偏食・少食・マナー・箸の持ち方の指導。アレルギーに関して除去食や代替え食。食に関する悩みや問題の相談。
IV 職員へ対して：保護者への対応についての不満。個人的な話を聞いて欲しい。園での子どもの様子を細かく知りたい。トラブルに対する対応への不満。
V 保育環境：職員の増員。担任を指名。

表5. 保育所で特徴的なニーズ

I 保育内容：夕方寝かして欲しい。お迎えにきた後も保育所にいる間は保育士に子どもを見ることを要求。朝忙しくて最低限のことをやらずに保育士任せ。歯磨きして欲しい。幼稚園のように習い事を取り入れて。
II 保育方法・形態：仕事以外の私用でも預かって欲しい。一時保育も延長を。包帯の交換・塗り薬。送迎して欲しい
III 食事・おやつ：アレルギーにも関わらず他の児と同じものを食べさせたい。病気の時の食事。食事・おやつ量が足りない。おやつは手作り。給食費をプラスして1品増やしていることへの不満。

IV職員に対して：話しかけて欲しい、担任とのコミュニケーションが足りない。
V保育環境：行事が多すぎる、親が参加できる行事を増やして、室内温度の調整、耐震についての質問、喘息の原因になるぬいぐるみの扱い。

表 6. 幼稚園で特徴的なニーズ

I 保育内容：英語教育の要望、お遊戯やなわとびが苦手な子どもへの個別指導、小学校で使う楽器の使用を要望。
II 保育方法・形態：障害児と他児のトラブルへの対応、預かり保育でも制作をさせて、預かり保育という名称を変えて欲しい、園バスを家の前で停めて欲しい、延長保育終了後家まで送って欲しい。
III 食事・おやつ：登園をいやがるので無理に食べさせないで、延長保育のおやつは子どもの望むものに、給食とお弁当を選択制に、給食を始めて欲しい。
IV職員に対して：降園後の保護者同士の付き合いについての苦痛を訴える、子どもへの対応に関して言葉がきつい、叱らないで欲しい（自分の子）、悪いことをしても叱らないのか（他児）、教育方針などに関する質問、職員同士の言葉遣いが気になる。
V 保育環境：インフルエンザ対策、うがいコップの共用はやめて、降園時に門の前に立って安全に目を配って欲しい、はさみを撤去して欲しい、エアコン・遊具・駐車場の設置、母の会への協力、制服について。

4. ニーズに対する対応の仕方について

1) 全体の比較

図2は、それぞれのニーズに対する対応について、記述内容を分類した結果である。幼保いずれも、「1 要望を受け入れて対応する」が最も多く、幼稚園48.9%・保育所56.9%と約半数を占めていた。保育所の割合がやや高いが有意な差ではなかった。次いで、要望を受け入れがたい場合の「3説明・説得」は幼稚園19.8%・保育所20.3%、「2一部受け入れ」は幼保ともに13.8%でいずれも差がなかった。ニーズの受け入れ状況において幼保間の差は小さいといえる (P=0.104)。

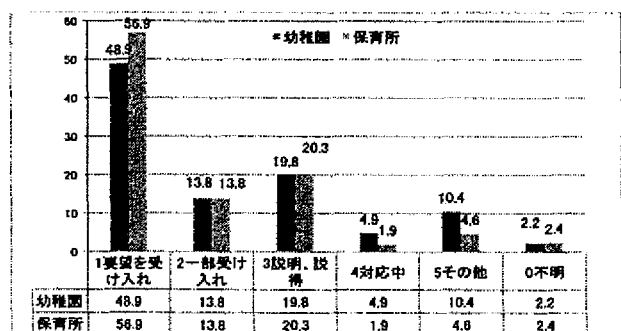


図2. ニーズへの対応

対応についての基本方針は幼保でほぼ共通していた。双方ともまず保護者の話をよく聴き、出来る限りニーズに応えようとしていた。その際、保護者の立場や気持ちを考えるとともに、子どもを第一に考えて対処することを基本としていた。また、要望を受け入れることが出来ない場合は、園の方針に添って理解を求めていた。要望を受けた保育者は必要に応じて、園長や同僚などに相談したり、職員全体で協議したりして対応に当たっていた。さらに、児の障害やその疑い、保護者の要支援ケース他、対応が困難な事例については、幼保どちらも外部の専門機関などと連携がとられていた。

2) 個々のケースにおける比較

全体として、どの程度ニーズを受け入れるかの割合は幼保間で近似していることを図2で示したが、ニーズの内容には違いがあったので、受け入れた内容も等しくはない。同じ内容のニーズに対して異なる対応をしている例もあった。そこで、ニーズへの対応の仕方について以下の視点で幼保を質的に比較した。(1) 同じ内容の要望を受け入れるか否かの判断の違い、(2) 不本意でも受け入れざるを得ない状況、(3) 説得により要望を断る場合。

(1) 要望を受け入れるか否かの判断の違い

同じような要望に対して、幼保間で対応に違いが見られたのは、次のような記述であった。

ニーズ1：昼寝させて。夕方寝かせて。昼寝の時間をずらして欲しい。

幼：「人数によっては無理なこともある」と伝えた。

保：要望に添って個別対応していたが、家での生活リズムをかえるなど、協力して欲しかった。

ニーズ2：保護者の都合でお迎えまでに着替えをさせておいて欲しい。

幼：「着替えは基本親がするので、保育者側は出来ない」

保：要求を受け入れたが、「そこは保護者がすべきことではないかと考える」

上記の2例は、いずれも幼稚園では要求を断っているが、保育所では不本意ながら受け入れている例である。このような保育所の対応は以下のような例にもみられる。

保：朝の支度をしない保護者に、忙しいのだからしてあげようと思い気持ちよく「いいですよ」と受けている。

「しかし、保護者の態度は腑に落ちない。」

保：個人のマークを変えて欲しいという要求に添って対応したが「自己中心的な考えと思えて、納得できない。」

保：迎えにきた後も保育園にいる間は保育士が子どもを見るのが当たり前とし、「保護者が責任を持っていただきたい由伝えても意志の疎通が出来ない」

これら保育所の例では、保護者の要望は保育士側のすべきことではないと感じており、不本意ながら保護者の要求を受け入れている状況が分かった。

(2) 不本意でも受け入れざるを得ない状況

幼保共通して、不本意でも要望を受け入れざるを得な

い状況としては、病気の時の受け入れが代表格であった。幼保いずれも保護者が仕事を休めないとして、熱があっても連れてきてしまった場合や、保育中熱が出たなどで保護者に連絡しても、仕事の途中で帰れないとした場合に、夕方まで「預からざるを得ない」という状況があった。

(3) 説明・説得により要望を断る場合

一方、保護者の理解を求めたり（すなわち、要望を断る）、説得したりしていた例をあげると、以下の通りである。

幼：しつけをして欲しい、に対して「しつけは家庭で」

幼：微熱があつて連れてきた時「帰宅してもらった」

幼：お迎えの時間に遅れる場合

「仕事をええたり、時間を短縮したりするよう勧める」

「子どもがさみしがると伝える」

幼：家庭の事情を持ち込んだ要望に「はっきり断る」

保：文字や数を教えて欲しい、に対して

「遊びの中で興味を持てるように働きかける」

保：保育参観に夫婦で参加したい、に対して

「大人が多すぎてはという理由で1人に制限」

保：延長料金について1-2分なら払わない、に対して「ルールは守っていただいた」

保：延長保育を私用の理由で利用したい、に対して

「お預かりできないと伝えた」

以上から、保育者側が保護者の要望を受け入れないケースとは、方針がはっきりして揺るぎない場合や、保護者の要求に添うための条件や体制が整っていない場合であり、幼保ともに保育者が毅然とした態度で対処することができるようであった。

3) 対応に苦慮した事例

ニーズへの対応に苦慮した割合は保育所が高めであったが、その内容は幼保で共通したものも多かった。昼寝や外遊びなどの個別対応、病気やけが、子ども同士のけんか、保育時間の延長やお迎えの遅れ、障害児への対応、保護者同士の問題、保護者自身の問題への対応などが共通に苦慮された項目としてあげられる。保護者の自己中心的な、自分の子どもだけを特別に扱って欲しい、家庭や保育時間外の問題を持ち込む、延長保育料金を払わないなどの態度には幼保ともに保育者は戸惑いを禁じ得ないようだった。

対応が困難なケースでは、家庭との連携の問題があり、例えば、トイレ・トレーニングは、幼保ともに保護者が保育者に頼り、家庭ではトレーニングをしない例が認められた。「しつけ」や「生活リズム」などとともに、子どもの健全な生活を維持し、その発達を促すためには、家庭との連携が必須であるが、コミュニケーションがとれない、保育所や子どもに無関心、など保護者の理解を得ることが難しい場合、家庭支援として時間をかけて取り組むことが必要とされていた。

その他にも、こじれた、対応中など、対応が長期にわたる場合が認められた。子ども同士のトラブルが親同士のトラブルに発展するなど、特に、幼稚園における放課後や休日に起こった問題についての対応は、保育者の負担となっていることがうかがえた。

また障害児を取り巻く問題として、他の保護者から要望が寄せられ保育者が苦慮するケースが幼保ともに認められ、当該児、当該家庭のみならず、クラス全体の問題としての対応が必要とされていた。

IV. 考察

幼稚園と保育所の保護者のもつ保育ニーズについて、保育者からみた実状とそれへの対応の仕方について2回に渡る調査の資料をもとに比較を試みた。保育所のニーズは「ケア」に関わることが比較的多く、幼稚園は「教育」内容に関わることが多いという結果を示したが、共通のニーズも多かった。以下、その異なる点と共通する点について若干の考察を加える。

1. 個別ニーズにおける対応の違い

「保育の内容」では、幼保共通のニーズとして、昼寝や外遊び、着替えなど個別対応の要望があった。幼保双方とも、出来る範囲で対応していたが、要望をそのまま受けることはしないとする対応は幼稚園にみられ、「しつけ」の要望についても、家庭ですべきことは家庭で、とする例があった。一方、家庭や保護者のすべきことについて、不本意ながら要望を受け入れる例は保育所にみられた。全体で見ても、対応に苦慮したと答えた割合は保育所が高めであり、保護者のニーズへの対応は、保育所の負担の方がやや大きいのではないと思われる。

保育所の保育士が、保護者が忙しいなどの状況のみで要望を受け入れている背景については、保護者支援とくに育児と仕事の両立支援の責務を感じていることが推察される。また、保育がサービスと呼ばれるようになったこととの関連や、家庭育児支援についての認識が幼保の保育者間で異なっていることも考えられよう。一方、幼稚園ではお迎え時間に遅れる保護者に対して「仕事を替えるよう勧める」「こどもがさみしがると伝える」など、子ども最優先ではあるが個人生活に踏み込んだ助言があった。

このような対応の違いの背景については、今回の結果からは解明できず、今後の課題としたい。

2. 病気・仕事・私用のための保育ニーズ

「保育の方法・形態」では、幼保ともに子どもが病気になった時の保育や、保育時間の延長（預かり保育）のニーズがあげられた。その背景としては、働く母親の増加が考えられ、保育所に限らず幼稚園においても、保護者の就労支援・育児と仕事の両立支援ニーズが高まっていることがうかがえた。

病気の時の保育ニーズへの対応としては、幼保ともにやむを得ず預かるという現状があり、実態として病児を保育していることが明らかとなった。この実態を踏まえれば、両施設において看護職または養護教諭の配置や保健室の設置を必須とすることが、検討されてしかるべきではないだろうか。

私用を理由に保育を希望することに対しては、幼保ともに、通常の保育時間内であれば認める傾向があり、保育体制が整っている時間帯であるからと理解できる。延長保育の時間帯や土曜日においては、幼保ともに受け入れ体制の有無や園の方針によって可否の判断がなされていた。

理由を問わない一時保育事業は別として、保育所においては保護者の私用を理由とした保育は、原則として認めていないところが多いであろう。預かり保育の場合も、ほとんど保育所と変わらない保育の認定基準（保護者の就業、心身の不調、介護など）を定めている自治体があるが⁵⁾、「その他、保護者の私的理由などで園長が認める状況の場合」を含めている例もある⁶⁾。リフレッシュなど私用を理由とした保育ニーズにどれくらい対応するかは、地域や施設によって差があるのが現状のようである。

3. 保健領域のニーズ

全体の5領域中「食事・おやつ」の記述件数は、幼稚園では最も多く、保育所に比べてもその割合が高かったが、「食事・おやつ」のニーズへの対応に苦慮したと答えた割合は保育所の方が高かった。幼保いずれにとっても食の問題は大きいといえる。幼保ともに保護者から食に関する悩みや相談を受けており、親子双方を対象とした食育の重要性が示された。

アレルギーに関しては、除去食や代替え食のニーズがあり、幼保ともにきめ細かく対応されていた。行事の時などは特別な配慮が必要で、アレルギー対応は保健面の重要なポイントといえる。

障害児については、その疑いも含めて幼保ともに多様なケースを受け入れている現状が明らかになり、職員増の要望が双方であげられていた。保育所では家庭との連携や、外部の専門機関との連携の努力がなされていたが、対応が困難であることには変わりはないという記述があった。幼稚園では保護者間でクラス全体の問題に発展する例があり、障害への理解や情報の共有は、当該保護者と保育者間のみならず、保護者全体に理解を求める必要が生じるケースがあることが示された。

病時に備え、看護職または養護教諭の配置や保健室の設置を必須とすることを検討課題として前掲したが、食の問題の比重の大きさをみれば、栄養士の配置も推奨すべきといえよう。嘱託医や校医との連携とともに、これら保健環境の整備は、障害児の受け入れやアレルギーへの対応、感染予防など環境衛生面においても有益であることは言を俟たない。

以上、保護者の多様なニーズや要望とそれへの対応について幼保を比較しながら検討したが、紙幅の都合もあり、すべてを紹介したとは言えないことをお断りしておく。限られた資料ではあるが、ニーズと対応を通して保護者と保育者の関わりの実状を垣間みることができた。今回は保育者による回答を分析したが、保護者の持つニーズやその背景となっている生活実態などは直接保護者を対象に調べる必要がある。保育者の育児支援に対する認識などとともに、今後さらに資料を収集し、家庭育児支援のあり方を追究していきたい。

V. 結論

幼保間のニーズの違いとしては、幼稚園はしつけなど教育の内容や質、環境といった「教育」に関するニーズが比較的多く、保育所は病時や日常の世話といった「ケア」に関するニーズが多かった。

しかし共通するニーズも多く、保育時間の延長は双方であげられた。病時の保育とあわせて、幼稚園においても保護者の就業支援としての保育ニーズが高まっていることがうかがえた。

共通ニーズとしては、アレルギーへの対応もあげられ、病時の保育ニーズや食の問題とともに、保健領域の対応の重要性が示された。嘱託医・校医の指導のもと、看護職・養護教諭・栄養士の配置、保健室の設置など保健環境の更なる充実が望まれる。

対応に苦慮する割合は保育所の方がやや高い傾向がみられ、幼稚園では受け入れがたいとして断った要望を、保育所では不本意ながらも受け入れる例が認められた。この対応の違いの背景については今後の課題である。

文献：

- 1) 厚生労働省. 保育所保育指針第1章総則 2. 保育所の役割. 2008
- 2) 文部科学省. 幼稚園教育要領, 第3章第2. 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項. 2008
- 3) 齋藤幸子・須永進・青木知史・山屋春恵. 保育所における保護者のニーズとその対応に関する調査. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 第45集, 303-310. 2009
- 4) 齋藤幸子・須永進・青木知史・山屋春恵. 幼稚園における保護者のニーズとその対応に関する調査. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 第46集, 247-255. 2010
- 5) 横浜市. 幼稚園の預かり保育をご存知ですか <http://www.city.yokohama.lg.jp/konan/child/pdf/h23annai03.pdf>, 2011.4
- 6) 習志野市ホームページ. 預かり保育の実施について <http://www.city.narashino.chiba.jp/kurashi/kosodate/h-oikugakko/azukarihoiku/index.html>. 2011.4